

子罕第九

子曰、知者不惑、
仁者不憂、勇者不懼。

し い 子曰わく、 ちしや まど 知者は惑わず、
じんしや うれ 仁者は憂えず、 ゆうしや おそ 勇者は懼れず。

(9-234)

<子曰わく、知者は惑わず>

Q：「子曰わく、知者は惑わず」とは何ですか。

- A：(1)「孔子が言った。ものの道理をわきまえている知者は、どのようなことにも惑うことがない」の意。
(2)「知者は道理に明らかだから惑わない」の意。
(3)「不惑」とは、道理にまどわない。

<仁者は憂えず>

Q：「仁者は憂えず」とは何ですか。

- A：(1)「人間愛をもつ仁者は、どのようなことにも心優えることがないし」の意。
(2)「仁者は道理に従い、私欲がなく事に善処できるから心配することがない」の意。
(3)「不憂」とは、心配することがない。

<勇者は懼れず>

Q：「勇者は懼れず」とは何ですか。

- A：(1)「そして、正義を尊び、意志強固な勇者は、どのようなことにも、おそれることがないものだ」の意。
(2)「勇者は志気が盛んで果敢決行できる者だから懼れるところがない」の意。
(3)「不懼」とは、心がピクピクしない動揺しない。
(4)知・仁・勇の三つは、天下の道徳なりとは、中庸の第二十章に説くところではうるが、孔子は常に正しい知的判断を失わない仁愛を説き、勇以てこれを行って人世に対処しようとした。本章は、君子の徳としての知・仁・勇の三徳の意義を極めて簡明に説き得たもの。